

事例

「食の安全・食育」の体験型ミュージアムを運営 (第3回食育活動表彰 農林水産大臣賞受賞)

大阪いずみ市民生活協同組合（大阪府）

大阪いずみ市民生活協同組合は、「食の安全」と「食育、食べることの大切さ」を学ぶことのできる体験型ミュージアム「たべる＊たいせつミュージアム」を運営しています。誰でも無料で利用でき、週末には食に関わる親子向けの体験イベントも実施しています。また、小学校の校外学習の場としても活用され、食育の推進に役立てられています。

「たべる＊たいせつミュージアム」は、年間2万件以上を検査する「商品検査センター」に併設されています。「食の安全ゾーン」、「食育ゾーン」、「ライブラリーゾーン」、「体験・ワークショップゾーン」があり、来館者が「見て、触れて、試してなっとく」できる様々なコンテンツが展示されています。

「食の安全ゾーン」では、微生物や残留農薬などの食品検査の様子をガラス越しに見ることができ、検査員にマイクを通して質問することができます。「食育ゾーン」では、消化の仕組みを学ぶ巨大な人体トンネルを始め、子供の“なぜ？”を引き出せるよう工夫しています。「ライブラリーゾーン」には、食育のこと、食の安全のことを楽しく学べる絵本や書籍があります。そして、「体験・ワークショップゾーン」では、ミュージアムスタッフによる食に関する体験企画や週末イベントとして食品企業や専門家とのコラボ企画を開催し、チリメンジャコの中からカタクチイワシの稚魚以外の生物を探す「チリメンモンスター」など、子供たちの食への興味を引き出しています。また、移動手段等の問題で来館が難しい方のために、ミュージアムスタッフが出向いて行う、豆腐作り体験や食べ物の糖度調べなどの出張授業にも力を入れています。

令和元（2019）年12月には、来館者が10万人を超えました。今後さらに、様々な方に繰り返し利用していただけるよう、新しいプログラムの検討やミュージアムスタッフの育成を行っています。



ミュージアム（人体トンネル）を見学する小学生

企業と連携した体験イベント
(ウインナー作り)

出張授業の様子

第3章

地域における食育の推進